

【論点整理：議題(1)関係】

幼児期から社会人に至るまでの教育・研修プログラム

京都府が推進するプレコンセプションケアとは

- ・ 性や妊娠に関する科学的知識を身に付けることに加え、
- ・ 身体的性差や性の多様性(性的指向・性自認等)、ジェンダーの平等等を誰もが理解し合い、自他の「性と生殖の健康」を人権として尊重する「性と生殖に関する健康と権利(SRHR)」の視点を盛り込み、
- ・ 上記を土台として、自身が望む生き方・ライフデザインを描き、それを実現するために必要な人間関係の構築方法や健康管理の方法を身に付ける

など、国定義の「プレコンセプションケア」より幅広く、包括的な取組とする

プログラムの概要



① ライフステージに応じた項目の設定

② 繰り返し学ぶこと(スパイラル学習) が必要

3

プログラムの概要

第1領域 【基盤】

「性や妊娠に関する科学的知識」・「性と生殖の健康」の基礎的理解
ライフスタイル選択のための基礎理解(人権、ジェンダー)

第2領域 【応用】

からだの権利を通して、相手と自分の関係を考える

第3領域 【発展】

ライフデザインに必要な意思決定、プレコンセプションケア



各年代で深度を深めていく

プログラムの概要

	おかれている状況	取り扱う内容
幼児～ 小学校低学年	<p>全ての子どもにとって、この時期は、学校や家庭で健康な生活習慣やよい人間関係を身につけ、それが習慣化する時期である。</p> <p>「性と生殖の健康」においても同様で、その理解が始まり、性の権利を尊重し合うことが個人的にも集団としても身につく習慣化していく重要な時期となる。</p>	<p>自他のからだの権利を知り、尊重できることを目的とする。「性と生殖の健康」の基礎的な内容を扱い、後の性の自立に向かうための基盤をつくる。</p>
小学校高学年	<p>この時期は思春期前期で、身体的、感情的、社会的に変化する時期を迎える。</p> <p>「性と生殖の健康」でも子どもからおとなへの移行期となり、性の権利を保障し、自他の多様性を認め合い、変化を安全に肯定的に受け止める時期となる。</p>	<p>自他のからだの権利を知り、一人ひとり尊重され、多様であることを知る。</p> <p>幼児期～小学校低学年に引き続き、「性と生殖の健康」の基礎的な内容を扱い、後の性の自立に向かうための基盤をつくる。</p> <p>性や妊娠に関する科学的な知識の基盤をつくる。</p>

5

各年代の状況

	おかれている状況	取り扱う内容
中学生	<p>この時期は思春期中期であり、からだの成熟が進み、おとなとしての自分を確立し、養育者からの自立が始まる時期である。からだの成熟が進み、多くが生殖可能となり、一般的に、性や恋愛への関心も高まる。</p> <p>しかし、社会的自立へはまだ時間を要するため、安全で健康な性の権利に基づく自立を保障する時期となる。</p>	<p>自分の性との付き合い方を知り、他者との心地よい健康な人間関係を築くことができるようにする。一人ひとりが多様な存在であることを知る。</p> <p>また、受精から出産について科学的な知識を得ながら、性と生殖についての権利がすべての人にあることを知る。</p> <p>小学校高学年を基礎に、性や妊娠に関する科学的な知識の基盤をつくる。</p>
高校生	<p>この時期は思春期後期ともなり、中学生時期の目標に加え、青年期を迎えるためより社会的自立に向いていく時期となる。中学生時期に加え、より社会的な視点で性の権利を保障する時期となる。</p>	<p>中学校を基礎に、受精から出産について科学的な知識を得ながら、性と生殖についての権利がすべての人にあることを知り、子どもを持つこと責任について考えることができるようにする。</p> <p>身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態(ウェルビーイング)は、人間の基本的な権利であることを知る。ライフデザインを自分で決定することができるようにする。</p>

6

各年代の状況

	おかれている状況	取り扱う内容
大学生・社会人	この時期は成年年齢となり、からだ(心を含む)、経済的・社会的にも自立を目指す時期となる。	決定した自己のライフデザインを実現できるよう実行することができる。社会的自立ができるよう、困ったときには必要な支援を求めることができるようにする。

7

有識者の皆様にお伺いしたいこと

- ①資料1「京都府におけるプレコンセプションケア推進の方向性(案)」について、ご意見いただきたい。
- ②資料3「幼児期から社会人に至るまでの教育・研修プログラム(全体像)」についてご意見いただきたい。